

園だより冬休み

その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。

ヨハネによる福音書 1章9節

先週末の3日間、各学年それぞれにお家の方々と一緒に温かな豊かなクリスマス礼拝が守れましたこと感謝でした。

クリスマスまでのアドヴェントの日々、子どもたちは様々に心を動かし幼稚園生活を過ごしていました。アドヴェントとは「待降節」、イエス様のお誕生を「待つ」日々のことです。そのアドヴェントの日々、子どもたちは言葉通り「待つ日々」を過ごしました。第一アドヴェントから一人ひとりに届くそれぞれの「ひかり」。その光がクラスのアドヴェントカレンダーとして全員のひかりが壁面に飾られた時、クリスマスがやって来ます。どの子にいつ届くのか、誰にも分かりません。今年も、どの子どもたちも楽しみに待っていました。初めて待つ経験をした年少さん、「がんばって一人でお着替えしたのにひかり届かなかった」とお母様に呟いたとか。子どもなりにどうしたら届くのかな、と考えていたのですね。微笑ましいエピソードでした。様々時間に追われて過ぎていく毎日、「早く早く」と待つことよりも進むことに意識が行きがちなのを過ごしていいのでしょうか。

幼稚園では二学期頃になると日常の生活の中でも「待つ」ことを大切に思い過ごしていけるようになります。保育者たちは「待つ」という経験の大切さを心に留め過ごします。集団生活の中ではそれぞれが気持ちを切り替え、行動をして行く場面がたくさんあります。そのとき、子どもたちの気持ちが一斉に切り替わるわけではありません。その時の状況、気持ちを切り替える心持ちは一人ひとり違います。そんな一人ひとりの想い、時も私たちはとても大切に思います。そして、そこから個々が気持ちを切り替え、皆の気持ちがひとつになるときを待ちます。友だちの心の動きを大切に思い待つ経験、友だちが自分を大切に思い待ってもらえる経験、どちらも子どもたちにとって意味のある経験となります。日常の生活の中で、強いられるのではなくその子の想いで「待つ」ことの大切さ、心地よさを感じることでできる環境を、保育者たちの想いと共に備え続けたいと願います。

みんなで備え、待ち、迎えた各学年のクリスマス礼拝。「待つ」ことの大切さ、そして喜びを今年度もゆっくりと穏やかに心に受け止め、二学期を終了できますこと感謝いたします。今学期も保護者の皆様にはご理解とご協力をいただき、たくさんのお支えを本当にありがとうございました。

これからのご家庭での心温まるクリスマス、良い年末年始をお迎えになられますことをお祈りいたします。三学期もよろしくお祈り申し上げます。

園長 駿河 幸子